

速報第3722号 R5.10.6発行 総務課 扱	道議会における質疑・質問及び答弁要旨	5年・3定 文教委員会 10月5日	質 問 者	広田 まゆみ 委員 民主・道民連合 (札幌市白石区)
質 疑 ・ 質 問	答 弁	担 当 課		
<p>一 道立学校施設への冷房設備設置等について 私としては、このことに対する対応が気候変動やゼロカーボン推進に関して、道教委がどう対応するかという姿勢の表れだと感じておりますので、改めて伺っていききたいと思います。</p> <p>(一) 議会議論を踏まえての今後の対応について 今議会中に、我が会派もそうですが、各党派、各議員からも学校のクーラー設置について、活発な議論があったところでございます。道教委として、それらの意見を踏まえて、どのように市町村の意向などを集約し、どのように支援していく考えか、改めて伺います。併せて、道立高校におけるクーラー設置の準備作業をどのように進めていく考えか、スケジュール的なものも含め、道教委としての現時点での方向性を伺います。</p> <p>(二) 道立学校における長寿命化診断や断熱性などの状況調査について マスコミなどいわゆる世論や、インターネットを活用した高校生による署名活動など、クーラー設置の声は非常に高いものと私としても認識しております。一方で、ゼロカーボンなど統合的な施策の視点に立てば、断熱構造の低い躯体に、ただ、クーラーを設置することには、非常に問題があると私としては危惧します。そうした状況は、子どもたちの未来のために、教育効果としても良くないと考えます。全国的にも、8月29日に地球温暖化など環境問題に取り組む有志の団体、全国的なネットワークですけれども、2万6000人余りの署名とともに、全国の学校の教室で断熱改修を早急に進めるよう要望書を永岡文部科学大臣に、直接、提出されたことがテレビ報道などででもされておりました。この団体によると、断熱性が低いために冷房が十分に効かない教室があり、調査では7℃くらい違うようです。この危険な暑さから子どもたちを守るためにも、全国の学校の教室で断熱改修を早急に進めるよう求めているところでございます。温暖化対策の観点で道庁とも議論しているのですけれども、道立高校だけではなく道全体として、長寿命化診断は、順次、行われていますが、躯体の断熱診断などは全く行われていないのが現状であると認識をします。</p>	<p>(総務政策局長) 学校における空調設備の整備についてでございますが、学校は児童生徒が一日の大半を過ごす学習の場であることから、熱中症の防止はもとより、安全・安心で快適な教育環境の確保は重要であります。本年度は、真夏日や猛暑日が増加したことから、市町村などから学校等への冷房設備整備について要望が上がっているところでございまして、北海道公立文教施設整備期成会などを通じ、市町村の意向を確認しながら、市町村立学校の整備に係る財政支援の拡充について国に強く要望してまいります。また、道立学校の冷房設備につきましても、国への支援策の要請とその活用を図りながら、可能な限り設置できるよう速やかに検討を進めてまいります。</p>	施設課		
<p>1 長寿命化診断など道立学校施設の課題について 道立学校における長寿命化診断や断熱性などの状況調査について伺っていききたいと思います。まず、長寿命化診断について伺います。道立学校における長寿命化診断の現状を伺うとともに、それを踏まえて、修繕計画などがどのようにになっているのか伺います。また、今後、長寿命化診断の対象となる学校がどの程度あり、予算の確保など道教委として、どのように対応していく考えか伺います。</p> <p>(意見) 長寿命化診断の対象が増えていくという認識をしました。</p>	<p>(施設課長) 長寿命化診断についてであります。築47年経過した建物について、診断を行った結果、更に20年間使用可能な建物については、計画的に長寿命化改修を行うこととしておりまして、今年度は6校の工事を実施しております。今後、令和6年度は5校、令和7年度は12校、令和8年度は10校、令和9年度は7校、令和10年度は5校を対象として長寿命化診断を予定しております。診断結果に基づき、必要な予算を確保しながら、長寿命化改修工事を実施することとしております。</p>	施設課		
<p>2 躯体の断熱の調査の必要性や財源の確保について 今後、クーラー設置を進めていく中で、長寿命化だけではなく、躯体の断熱の状況もチェックし、必要な改修などを進めていく必要があると考えますが、必要性について、道教委の認識を伺うとともに、現状で、道立学校における断熱性の課題などについては、どのように把握しているのか伺います。</p>	<p>(施設課長) 断熱性の課題についてであります。道立学校校舎の躯体には、断熱処理がなされておりますが、建築年数が古い建物は、十分な断熱性能を有していない場合もあるため、大規模改造工事時において建物の状況を確認しながら整備を進める必要がございます。道教委といたしましては、空調設備の能力を十分に発揮するためには、建物に適切な断熱性能が必要と考</p>	施設課		

質 疑 ・ 質 問	答 弁	担 当 課
<p>また、今後、小中学校のクーラーの設置が進むであろう市町村に対しても、断熱に関する必要な財源措置を、脱炭素、気候変動対策として、中央政府に求めていくべきと考えますが見解を伺います。</p> <p>併せて、道立学校の施設整備に関しても、特に、今後気候変動対策にかかわるものに関しては、道単独ではなく、中央政府にも対応を求めるべきと考えますが、見解を伺います。</p> <p>3 道立学校の断熱対策について</p> <p>断熱を中心に伺ってまいりましたが、ゼロカーボンの施策と呼応して、長野県などでは、ヒートショックなどによる死亡や健康寿命の低下を防ぐために、断熱対策に補助制度を設けるなど積極的に取組を進めています。長野県の担当者にお話を聞いたところ、北海道は、断熱対策では、長野県の30年以上先を行っており、北海道から技術者に指導に来てもらっているということで、北海道標準に追いつくのが目標だとのことであり、改めて、北海道が蓄積した優位性としても認識したところであります。</p> <p>ところが、そんな中で北海道において、まだ、一枚窓など、断熱基準が低い道立学校があるとしたら、まず、早急に改善すべきと思いますが、見解を伺います。</p> <p>(指摘)</p> <p>断熱改修というのは、経費がかかるということは私も承知をしております。しかし、大規模改造工事の例えば、長寿命化診断のサイクルだとか通常の大規模改造工事のスケジュールに合わせて、一枚窓を放っておくというのは、如何なものなのでしょうか。やはり、ゼロカーボン推進基金の使い方については、一般質問でも議論させていただきましたが、少し課題があると感じていますが、他の各部で出しているいろんな充当事業を見ますと、道教委としましても少なくとも一枚窓はないだろと私は思うわけですが、ぜひ、ゼロカーボン施策との連動も含めて検討を進めていただくよう指摘をさせていただきたいと思えます。</p> <p>4 教育的なとりくみの検討について</p> <p>すべてにおいて、道教委ですから、地域と協働した教育的な取組につなげる必要があるのではないかと考えます。</p> <p>今、先ほども事例で話しましたとおり、インターネットで高校生自らがクーラー設置の署名を集めたりという活動も出ている中です。長野県の県立高校では、2020年から、地域の企業や団体と連携して校舎の一部を実験的に、DIYのワークショップ形式で、断熱改修するプロジェクトが行われています。</p> <p>このプロジェクトは、学校などの公共施設でも強度を保ったまま、自らが断熱改修できることや、一時的にお金はかかるものの、将来的に考えれば、コスト及び温室効果ガスの削減をしながら、ここがポイントなんですけれども、生徒自身もそこに介す人間自身も快適な空間を作れることを実証し、断熱改修を、地域の必要性も含めて、県立高校として県の施策に貢献していると思うのですが、その断熱改修を広めることを目的として行ったものと聞いています。その後、断熱改修を行った教室と行っていない教室を比較し、その効果を検証したとされています。</p> <p>断熱技術は北海道が優位にあり、技術者も多くいるわけですから、こうしたプロジェクトを参考事例に、道立高校として、断熱改修や温暖化対策の地域をまきこんだ教育に、より積極的に取り組むべきではないか、また、そうした取組に挑戦する小中学校を支援することも、道教委の役割と考えますが、見解を伺います。</p> <p>(指摘)</p> <p>好事例を道内の高校に紹介するのではなくて、ゼロカーボン推進という施策との関連性も含めて、具体的な事業として、道教委としても御検討いただきたいと思えます。</p>	<p>えておりまして、より効果の高い空調設備の整備のあり方について市町村とも情報共有しながら、取り組んでまいります。</p> <p>(施設課長)</p> <p>道立学校校舎の断熱性能についてであります。道立学校においては、一枚窓など断熱性が十分ではない校舎も存在いたしますが、校舎の気密性を向上させるためには、大がかりな工事が必要となりますことから、大規模改造工事等に合わせて断熱性能の改善を図っているところでございます。</p> <p>(学校教育監)</p> <p>学校における環境等に関する取組についてでございますが、児童生徒が本道の気候特性を題材とした環境教育に取り組むことは、地域の課題等を学習活動に生かすという点で重要であります。</p> <p>道内の高校では、「総合的な探究の時間」や「課題研究」の科目等において、教科等横断的な探究活動に取り組んでおり、一部の高校においては、現代の高気密・高断熱住宅の推進と換気による熱損出という課題に対応するため、住宅等から排出される余剰熱の再利用方法について考察をすることや、雪氷冷熱エネルギーの活用について研究するなどの学習活動を行っております。</p> <p>道教委といたしましては、各教科での学習を実社会での問題発見・解決に生かしていく教科等横断的な教育を推進する「S-TEAM教育推進事業」において、こうした取組を好事例として道内の高校に紹介するとともに、引き続き、地域の教育資源を活用した体験的な学習活動が推進されるよう取り組んでまいります。</p> <p>また、小・中学校においても、総合的な学習の時間で温暖化など環境に関するテーマを設定している学校があり、道内の市町村教育委員会や小中学校等に対し、道立高校での実践内容の成果を普及するなどして、児童生徒が、現代社会における地球規模の様々な課題を自分事として捉えるとともに、解決に向かって考え、行動する力を身に付ける教育を推進してまいります。</p>	<p>施 設 課</p> <p>高 校 教 育 課 義 務 教 育 課</p>

質 疑 ・ 質 問	答 弁	担 当 課
<p>そして、「S-TEAM教育推進事業」とか、例えば、住宅等から排出される余剰熱の再利用方法について考察ということで、生徒も手を動かしたり体験をしながらやっているというふうに思いますが、ここで事例を紹介させてください。</p> <p>私はずっと森のようちえんとか自然保育というところで、現場の話を開いたりしているけれども、例えば、森に子どもたちを放ってもなかなか本当の意味で森に関心をもってくれないんですけれども、子どもたちの目の色が変わったのは、冬を控えて、大人たちが間伐材を一生懸命に集めて薪を割り出したときです。ストーブに薪を使わなければいけないから、真剣に森で集めている姿を見たときに、自分たちの生活に森が関わっているということが分かって、子どもたちの目の色が変わったんですよ。という意味では、長野県の1つの事例ですけれども、暮らしと自分たちの学びが、そのことがどう関わっているかということをやから探究とか体験の学習なのであって、ぜひ、先ほどもお話ししましたがけれども、断熱技術は北海道が優位にあり、他の県に研修に行っている技術者も多くいるわけですから、重ねて、ゼロカーボン推進基金の在り方についてはいろいろな議論はあるし、私も納得いかない部分がありますけれども、少なくとも未来の子どもたちが将来発注者になったり、自分が家を建てたりするときに、躯体の断熱が大事だということをちゃんと理解することもとても必要ですし、北海道にそういう技術があっても、30年先に行ってて他の県がそれを目標にしているということを体感すれば、皆さんがやっているキャリア教育にも効果があると思いますので、ぜひ御検討いただくよう、また、改めて、次の議会でもしっかり議論したいと思っておりますけれども、ぜひ、道教委としても主体的な検討をお願い申し上げます、質問を終わります。</p>		